

2022 こもれび



2022年5月13日 1203号

幼稚園 048(794)3104

HPアドレス
http://wakuwaku-dokidoki.com

添付手紙
・春の遠足について

電車デビュー ドキドキの初体験

曇りや雨、時々晴れと梅雨のはりのような天候が続く。五月晴れはどこに行ってしまったのかと空を仰ぐ日々です。

そんな中、月曜日は年長組が電車に乗る初体験をしました。コロナ禍で家族でお出かけする機会も減り、電車に乗るのは初めて、というお子さんも多く、切符を買う、改札を通る、ホームで待つ、一般の人々と同じ車両に乗る、どれも子どもたちにとってはドキドキの初体験でした。

事前にいろいろシミュレーションをして出かけましたが、現場ではテンションが上がって、ホームで線路をのぞきこむ子、車内に入って座席に突進していく等々。初めてだものねと思う場面がいろいろありました。ちなみに乗った距離は2駅。座らずに立っているねと約束はしていたのですが...。もっとも体験する機会をと思った1日でした。

何たって、最終目標は上野なのですから。

いろいろ失敗があっても大丈夫。その中で学ぶ事がきっとあるはずですから。子ども時代はたくさん失敗をしながら次はどうしたらよいか考える、その事がとても大事だと思っています。(園長)



お胸がビシッ (5歳児保護者)

貴重な電車体験!! GW明け、月曜日。先生達の心意気を感じる日程ですね。

感想を聞くと、「心が壊れた。電車乗る時にお胸がビシッってなったり、人がいっぱいって...もう大丈夫!!」と話してくれました。電車には赤ちゃん以来です。乗りたがっていましたが、コロナもあって断念していました。

今日は、心に響いた今までにないドキドキ体験になった様です。☆兄達が「年長で社会体験!? 早すぎるしうらやましがっております。

2駅の大冒険 (5歳児保護者)

「電車に乗ろう!」金曜日からとても楽しみにしていて「50円1枚と10円3枚...80円だからね!」と何度も確認していました。(私が忘れん坊なのでよく心配だったようです。)

朝もテンション高めに登園し、帰宅後は目をキラキラさせて「切符もほくが買ったよ。電車のドアはこう開くの。電車の中は静かにしてないといふんだよ...」と沢山教えてくれました。2駅の大冒険、とても楽しかったようです。

ついつい車の方が楽し。周りに気をつかわず、自分達のペースで行けるし...と今まで数える位しか電車に乗った事がなく、乗ったとしても便利さを選んでSuicaで入り...切符を買った事もなかった息子ですが、今回の嬉しそうな顔を見て、「経験って大事なんだね!」を改めて気づかせてもらいました。今度、家族でもチャレンジしてみたいと思います。

夜は切符を折り紙で作って弟と遊んでいました。次はどんな楽しい事があるのか、今からわくわくしているようです。

おたまのその後 (5歳児保護者)

先日のおたまじゃくし飼いで娘は20匹ほど連れて帰ってきましたが、1匹を残し、他の子はみんな両手足が生え、カエルの姿になりました。(残り1匹はまだしほが長いです) 家にあつたずかんを見て、

ゆずはほうれん草やけずりぶしも食べると書いてあつたのであげてみたり、弟と一緒に足がでて、手がでて...と、姿が変わっていく様子を楽しそうに、嬉しそうに見ていました。(ほうれん草やけずりぶしはあまりおたまじゃくしに人気ではなく、残念がっていました。)...「緑になるところを見た!」と言って待っていたのですが、待っても待っても黒いまま...もしかしてヒキガエルの赤ちゃんですかね? ネットで2人で調べてみたところ、画像を見つけてきました。

どちらにしろそろそろお別れが寂しくなっています。近所におたまじゃくしをつかまえられる場もなく、貴重な体験をさせていただけ有り難く思います。

行事予定

16日(月) 年長 春日部お話の会
17日(火) ラッコクラブ
18日(水) 歯科健診
20日(金) 年長 田植え
※雨天 23日(月)

新しいお友だちが入りました

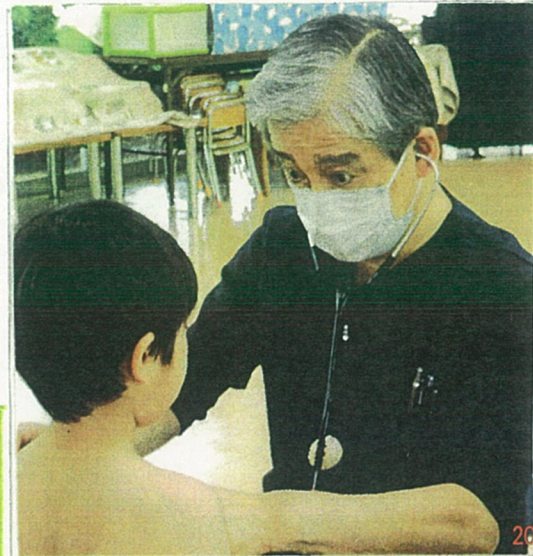
さくらんぼ

クラスの連絡係が決まりました

もも	そら
さくらんぼ	くま
ほし	きりん

お引き受け頂きありがとうございます。1年間よろしくお願ひ致します。顔合わせを5月30日(木) 10:30~ ホールにて予定しています。

コロナニュース 陽性者 4歳児1名 (5% 発症、家庭内感染)



「久喜 扶頭堂たかぎクリニック 高木先生プロフィール」

江戸時代元禄期から300年以上にわたりこの地で診察を続けているクリニックです。特に江戸末期からは小児科に重点を置き治療を行っています。

かつては「疳」を治す丸薬を調合し処方していたこともあり、「清久の疳解匠者(きよくのかんげいしや)」と呼ばれていたこともあるそうです。「扶頭」とは病に倒れた人に対し心を込めて治療するという意味です。

さて、木曜日は内科健診がありました。高木先生は診断の後、子どもたちが相手の顔(Dr.の)をしっかりと見れないことを心配されていた。これもコロナで話す場面が減ったことが原因ではないかとおっしゃっていました。

園でも子ども同士、保育者ともっとも話し合いを持ち、コミュニケーションを高めていきたいと思います。

